

《集会へのよびかけ》

地域や職場が奪われた…

炭鉱が閉鎖され、農産物が自由化され、地域産業が破壊される中で北海道内の各地域は、生産や生活を続けられるかどうかというギリギリのところまで追い込まれています。

北海道は「雇用の調節弁」と呼ばれてきました。長引く不況の下で、季節労働者や中小企業労働者、さらに高齢者や障害者などの社会的に不利な立場にある人々は、働く機会を奪われています。

働く人々への差別も厳しくなっています。労働組合員である、というだけの理由で解雇することがまかり通る…国鉄労働者は政府によって公然と解雇されました。

「安心・安全」な食生活、私たちが、子どもたちが快適に暮らせる環境は「自然が豊かな」北海道においても急速に失われています。

協同で未来を切り開こう！

しかし、そのような中でも、農協や生協をはじめとする協同組合運動、地域づくりや働く機会をつくるための共同運動、子育てのための父母や先生との協同…等々、私たちが自らの知恵と力を出し合って切り開いてきた運動は数多くあります。

これらの運動は、人間らしく生きられる地域や職場をめざし、私たち一人ひとりが主人公になることをめざす運動であると考えます。生産や消費、教育・福祉や文化のあらゆる場面を、働く人々が協力してつくりかえる…ここに私たちの未来がかかっているのではないのでしょうか。

北海道には産直や福祉活動に取り組む協同運動の豊富な蓄積があります。働く場をつくる地域づくりの取り組みでも、共同作業所や企業組合、高齢者事業団などの地域にねざした実践がすすみ、その中で労働者協同組合運動にもすでに熱い期待が寄せられています。

—各地の様々な協同の実践を持ちより、交流し、学びあいましょう。

—お互いの実践の中から、運動や事業の新しい発展の方向と地域づくり・仕事おこしの新しい方向を発見しましょう。

新しい協同のネットワークをつくろう！

人間らしく生きたい、自分たちの地域を再生したいと思っておられる皆さん、「協同」の可能性に関心を寄せておられる皆さん。新しい協同のネットワークをつくるこの集会に、ぜひとも参加されるように、心から呼びかけます。

「協同」のための北海道集会実施要綱

1993年6月13日 札幌市・北海道大学

全体会／午前10時～正午／北海道大学クラーク会館 大ホール

- オープニングスピーチ 山田 定市
- 全体報告／「協同」で拓く地域・北海道
—「コープアイランド北海道」の到達と課題— 太田原 高昭
- 実践報告Ⅰ／石巻地区中高年事業団の実践 菊地 芳雄
- 実践報告Ⅱ／協同の力で地域づくり・仕事おこし一別海町の場合— 吉野 宮子
- 実践報告Ⅲ／労働者協同組合をめざす企業組合での実践 大友 勝紘

分科会／午後1時～3時30分

- 第1分科会「協同で地域をつくる」／クラーク会館 大ホール
 - 報告1／豊かな地域生活の実現をめざして 横井 寿之
 - 報告2／生産者と住民のネットワーク化と地域づくり 川崎 克
 - 報告3／21世紀をになう青少年の健全育成をめざして 平間 信雄
 - 報告4／道央市民生協と美々川せっけん 木村 隆広
- 第2分科会「協同の力で築く事業と経営」／北大学術交流会館第1集会室
 - 報告1／障害者共同作業所運動の到達点と「協同」のための展望 北村 典幸
 - 報告2／「くみあい食品」の15年の闘い 瀬尾 英幸
 - 報告3／労働者協同組合「おといねっぶ」の現状と今後の展望 吉田 儀則
 - 報告4／労働者協同組合としての基本視点 山田 英夫
- 第3分科会「協同運動と労働者・労働組合」／クラーク会館 大集会室
 - 報告1／協同運動と労働者・労働組合 柳田 文雄
 - 報告2／農業協同組合における労働組合運動 西 秀行
 - 報告3／保育所の役割と労働組合 土岐由紀子
 - 報告4／協同組合と労働組合—二つの運動の関係と交流を考える— 手島 繁一

閉会集会／午後3時45分～4時20分／クラーク会館 大ホール

- 各分科会からの報告
 - 第1分科会 宮崎 隆志
 - 第2分科会 唐渡 興宣
 - 第3分科会 坂下 明彦
- 集会へのコメント 永戸 祐三
- 閉会のあいさつ 山田 定市

交流会／午後4時30分～7時／クラーク会館 大集会室